



 デンマーク王室の磁器コレクション
ロイヤル・コペンハーゲン

※今日、優雅で華麗な「フローラ・ダニカ」、清楚で可憐なデザインの「ブルー・フルーテッド」といった製品で世に知られるロイヤル・コペンハーゲンは、王室の庇護のもと、1775年に設立されました。

植物図譜をもとに創案された〈フローラ・ダニカ〉は、18世紀最大の規模で企画された磁器製テーブルサービスです。

※19世紀には、建築家アーノルト・クローが芸術顧問に就任、1889年のパリ万国博覧会ではグランプリを受賞するなど、高い評価を受けました。彼は北欧の風土に根ざした、独自のジャポニズムを創案、ロイヤル・コペンハーゲンの名声を確固たるものにしたのです。

※1992年、倉敷チボリ公園開園と同時にチボリ公園輸入促進委員会が発足し、公園の中央部にロイヤル・コペンハーゲンティールカップモニュメントが設置され、日本でも北欧を代表する名陶として多くの人々の人気を集めました。

ロイヤル・コペンハーゲンポーセリン陶板作家である、ヴィヨン・ヴィンブラッド氏、リンウツン氏のプラチナポーセリンも現代スカンジナビアンアートとして、数多く普及しています。

チボリガーデンプラザではこれ等の代表作品を常設展示しております。



陶製リトルマーメイド（ロイヤルコペンハーゲン）

《蛍石》

フローライトは紫外線を当てるとりん光※を発するため、蛍

石という和名がつけられました。
また、熱によって溶けやすいことから和名はラテン語で流れるを意味する“fluere”に由来しています。

※りん光とは紫外線を照射する事によって、物が発光し、照射をやめた後もしばらくの間発光している現象。対して、照射中のみ発光している現象を蛍光と言います。

